

2019 年度

アカコッコ保護事業報告書



日本野鳥の会はアカコッコ保護事業として、伊豆諸島とトカラ列島のみに生息する日本固有種で環境省のレッドリストで絶滅危惧 I B 類に選定されているアカコッコの個体数の増加を目的に、2012年から重要な繁殖地である東京都三宅島を中心に調査や環境整備、普及教育活動などを行なっています。

目 標

- ・アカコッコの生息地を増やすための森づくりモデルの確立と普及
- ・三宅島における森づくり作業の実施
- ・外来捕食者（イタチ等）への対策

アカコッコの個体数が減少して絶滅危惧種に指定

調査などを行い
原因を解明する

三宅島

原因①
イタチなど外来の
捕食者の増加

影響を調査して
対策を試行

イタチ対策を行政
などに働きかける

原因②
樹林地の減少や耕作放棄地の
増加など生息環境の変化

アカコッコの行動や必要
な環境、環境整備の効果
などを調査し、生息環境
を改善する方法を
提案

アカコッコが好む環境を増やす「森づくり」活動を広める

※軸として行っている事業

伊豆諸島の他の生息地の島

課題

- ・生息状況や課題があまりわかっていない
- ・三宅島との関わりがほとんど分かっていない

生息状況やどこをいつ利用しているかなどを、GPS ロガーといった機械や文献などの調査から把握し、保全が必要な場所や方法を考える

生息環境の改善が必要な地域があれば「森づくり」を提案

新たに減少の原因が分かった場合は、その対策を考える

目的：自然の生息地の中で、アカコッコの個体数が増加していく

主な活動

2012年 保全計画の作成、次年度以降の調査計画等準備
2013年～2018年

カラーリングを用いた繁殖期の行動圏面積の推定
森林内の下草管理区域のアカコッコによる利用状況の調査
三宅島でアカコッコ総個体数調査を実施（推定個体数は約 7,800 羽）
アカコッコの森復活大作戦のリーフレットの配布とイベントの開催

2019年 アカコッコの利用地域の解明に向け、GPS ロガーを回収、新たに装着
三宅島におけるアカコッコの総個体数調査の実施

日本鳥学会で調査結果について発表

環境省により国内希少野生動植物種に指定（調査結果などを基に当会が要望）



本事業は手島基金を基に
実施しています

三宅島

2019年度の活動

1) アカコッコの利用地域の解明

非繁殖期のアカコッコの利用地域を明らかにするため GPS ロガー（GPS を利用して場所を記録する機械）を使った調査を 7 月に行ないました。3 回目となる今回は3個体からデータを得ることができました。

今回の調査で、初めてメスの成鳥からデータの回収をすることができました。以前にデータが得られていたのはオスだけで、神津島に行った1羽を除き4羽すべてがほぼ1年中を三宅島で過ごしていました。秋から冬にかけて島内で見かける個体数が少なくなるといわれている三宅島、こういった個体がどう動くのか、今回のメスからヒントが得られるのではと期待しましたが、なんとこのメスも三宅島から出ることはありませんでした。すべて繁殖期に成鳥に機械をつけた結果なので、三宅島の繁殖個体にとっては遠くに移動せずに繁殖地を確保する方がメリットがあるのかもしれません。

三宅島のアカコッコにとってこの島の環境が守られることがとても重要であると改めて感じました。

2) アカコッコの個体数調査

三宅島のアカコッコの個体数がどうなっているのかを知るために数年に1度、全島で個体数調査を行なっています。2000 年の噴火の後、2009 年、2016 年にも同じ調査を行ないました。2019年も5月に当会職員と島民の方の総勢 28名で、島内に設定した25コースの調査を行ないました。

この調査は、アカコッコが最もさえずる日の出時間前後に 1km のコースを歩きながら左右 25m 以内の範囲でさえずっているアカコッコの数を記録するというものです。

三宅島のアカコッコの推定個体数は、2009 年は約 4,400 羽、2016 年は約 7,700 羽と 2009 年の 1.8 倍にまで増えていました。アカコッコの生息地である森に緑が戻ってきていることが大きな要因だと考えられ、2019 年の調査でも、さらに個体数が回復しているのではと期待されました。しかし、調査の結果は約 7,600 羽と前回とほぼ変わらない値となりました。この結果から、アカコッコが大きく個体数を回復できる状況にはないと考えています。

4) 日本鳥学会でのポスター発表

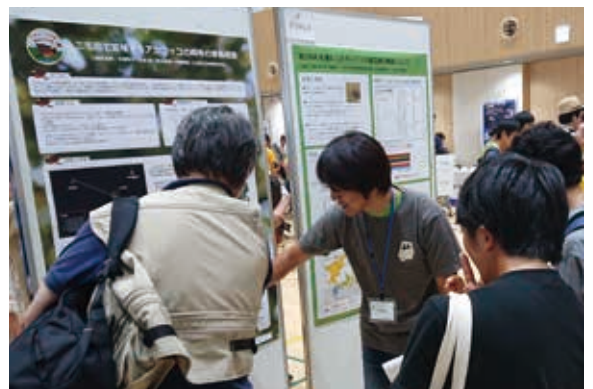
アカコッコの状況や生態を多くの方に知っていただき、またいろいろな意見を伺うために9月に開催された日本鳥学会でポスター発表を行ないました。今回は GPS ロガーを使った調査の結果を発表し、多くの方が話を聞きに来てくださいました。今後も折に触れ発表を行ない活動への感想や助言をいただきながら進めていきたいと考えています。



アカコッコが移動した神津島の地点の環境を確認



日の出時刻から個体数調査をスタート



日本鳥学会での発表の様子

本事業は手島基金を基に
実施しています